

# ひまわり



令和3年5月10日(月)

## いじめについて考える

「いじめはいけない」 「いじめ」は重大な人権侵害です！

「いじめはいけない」 このことに異論を唱える人はいないはずです。しかし、いじめは現実のものとして、みなさんの周りで起こっています。「いじめ」が原因で、命に関わる重大な結果を招くこともあります。人の命は何よりも重く、決してそのような事態を招くことがあってはなりません。「いじめ」は重大な人権侵害です。そして、場合によっては犯罪にもなります。

誰もが被害者にも加害者にもなり得る

過去の国立教育政策研究所の統計では、小学校4年生から6年生、中学校1年生から3年生のそれぞれの期間で、7割～8割の生徒がいじめの被害や加害の経験を持つことが分かっています。皆さんの中にも、いじめでいやな思いをしたり、いじめをしたという経験のある人が必ずいるはずです。

どんないじめがあるの？

- ☐ 仲間はずれ・無視・陰口
- ☐ からかう・悪口
- ☐ 軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ☐ ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ☐ 金銭強要・器物損壊
- ☐ パソコン・携帯によるもの

皆さんの中にも、左に書かれたようなことで嫌な思いをしたことがある人もいるでしょう。また、人に嫌な思いをさせてしまった経験のある人もいるのではないのでしょうか。

「いじめの構造」

- ☐ 被害者：いじめられる生徒
- ☐ 加害者：いじめる生徒
- ☐ 観衆：はやしたてたり、おもしろがったりして見ている生徒
- ☐ 傍観者ぼうかんしゃ：見て見ない振りをする生徒

重要ポイント

いじめの継続・拡大には、いじめる生徒といじめられる生徒以外の「観衆」や「傍観者」の立場の生徒が大きく影響しています。「観衆」はいじめをはやしたて、「傍観者」はいじめを暗黙的に支持し、いじめを拡大させているのです。ですから、「観衆」や「傍観者」にならないことも大切なのです。



## 皆さんに取り組んでほしいこと

- 自分がされていやなことは人にしない。
- 互いに尊重しあえる集団になろう。（相手の気持ちや考えを大切にする）
- 嫌な思いをしたときは、親や先生など、信頼できる大人に相談しよう。
- 友達から「いじめられていること」の相談を受けたときも、親や先生など、信頼できる大人に相談しよう。
- いじめられている人を助けよう。（いじめを見て見ぬ振りをしない。「いじめ反対」の声をあげる。）
- ネットいじめをしない。
  - ・ ネットいじめに誘われても断る
  - ・ 悪意のある書き込みをしない
  - ・ 人の秘密やうわさを広めない
  - ・ 意地悪な投票に参加しない
  - ・ 人の個人情報を他の人に送らない（名前・連絡先・写真など）

## 『いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ』より

（朝日新聞社編 2012. 9. 30）

### いじめられている君へ（教育学者 齋藤 孝）

君が今、少しでも嫌な目に遭っているなら、けっして「大丈夫」と言っ  
てはいけない。声をあげよう。まず、親に話す。「心配かけたくない」なんて思わ  
ないで。親は君が話してくれた方が安心なんだ。＜後略＞

### いじめている君へ（作家・僧侶 玄侑宗久）

周りがやると、空気を読んで、いじめに加わる。他人に軽々しく同調する。  
それが後にどれだけとんでもない結果を招くか、君たちは考えたことがあるか。  
人生には失敗もあれば挫折もある。やり直しもできる。しかし、やり直せない  
こともある。いじめれて人生をゆがめられた人間は、君を許さない。謝っても  
決して許されない。君は見ないふりをするかもしれないが、その事実是不変わ  
ない。これは、君が考えるよりずっと重たいことだ。＜後略＞

### いじめを見ている君へ

いじめを見たり聞いたりしても、誰かにそれを伝えるのは大変かもしれませ  
ん。今度は自分がいじめられるかもって、不安になりますよね。でも、気がつ  
いた人が言わないと、その子は助からないんです。＜後略＞

（ジャーナリスト 江川紹子）

いじめられている人をみたら、勇気を持って助けてあげてください。いじめ  
られている人が一番悲しいのは、自分を助けずに、ただ見ている人の眼です。  
その眼は、いじめられている人の心の中いっぱい広がり、深い悲しみの川  
の中へ沈めてしまうのです。＜後略＞ （スポーツジャーナリスト 増田明美）

一人一人が「いじめいけない」という認識をもち、互いに尊重しあい、助け  
合うことのできる集団の一員となってください。それがヒスミっ子です。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開して  
います。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

